

競技会で使用する靴底の厚さについて

2020年 WA ルール改正となったシューズ規定について、日本陸連も2020年12月1日から、このルールを適用することになった。福岡陸上協会もこのルールに従い競技会の運営を行っている。

2021年4月から福岡県内で開催される競技会は、日本陸連競技規則により実施することになるので、競技者は靴底の厚さの規定（下記参照）を熟知し競技会に参加すること。

競技会においては、靴底の厚さの検査を実施する。（検査方法については各主管陸協で決定）

なお、クロスカントリー大会や駅伝大会等については、このルール適用の範囲ではない。但し、主催者の決める申し合わせ事項等があれば、それによるものとする。

シューズ規定についての留意点

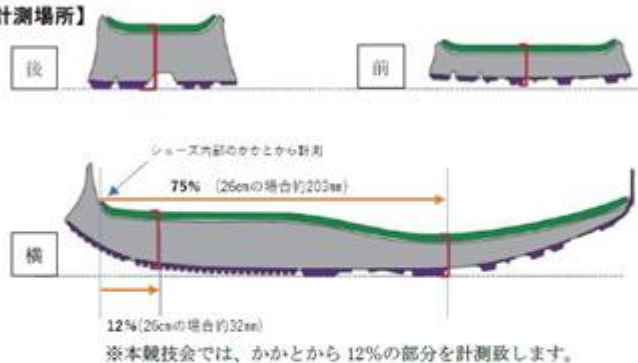
競技規則について

本大会は2020年ワールドアスレティックス競技規則及び日本陸上競技連盟競技規則により実施する。

シューズ規定については2020年7月28日から有効となった以下のシューズ規程で実施する。

シューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）の厚さは下記の計測場所となる。

【靴底の計測場所】



【靴底の厚さ】

種目	ソールの厚さ	補足
フィールド種目 (三段跳除外)	20mm 以内	全ての投てき種目、高さの跳躍および、三段跳を除く長さの跳躍種目に適用。全てのフィールド種目において、競技者の前の部分の中心点のソール厚さは、競技者のかかとの中心点のソール厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm 以内	競技者の前の部分の中心点のソール厚さは、競技者のかかとの中心点のソール厚さを超えてはならない。
800m 未満のトラック種目 (含むハードル)	20mm 以内	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。
800m 以上のトラック種目	25mm 以内	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。競歩種目ではロード種目と同様とする。

